



町長エッセイ



8月5日から9日まで七夕まつり文化継承として、第73回の小川町七夕まつりが実施されました。昨年に続き、イベントや花火大会は行いませんでしたが、コロナ禍の中、また東京オリンピックの終了の翌日まで伝統のまつりの七夕飾りが、町内139ヶ所に町内の方々の参加を得て飾られました。

役場の玄関にも町内の小中学校や放課後子ども教室の児童生徒による心のこもった作品が飾られ、訪れる人の目を楽しませてくれました。

さて、いよいよ東京パラリンピックが24日から始まりました。それに先がけて町では聖火の採火式を行いました。

19日午前6時30分より、リリックの屋外ステージで、町内の9小中学校の児童生徒代表や、パラスポーツ競技者が集まり、小川高校の生徒さんによる司会進行により、参加者は手づくりの和紙でできた衣装を羽織り、「スポーツのあかり」「平和のあかり」「福祉のあかり」などを小川町のあかりとして、和紙で作られたあんどん10個に1人1人が点灯しました。

その後、採火皿に灯した「小川町の火」をランタンに納め、朝霞市の中央公園陸上競技場に運び、17市町村の代表者とともに集火式を行い、「埼玉の聖火」が誕生しました。

小川町にも「埼玉の聖火」を持ち帰り、リリックに無事到着しました。

聖火は、町内数カ所の施設を回り、多くの方々に見て頂いた後、リリックに展示され、午後7時に消灯となりました。

24日夜には、東京パラリンピックの開会式が行われ、選手団入場後、パラリンピックのシンボルであるスリーアギトスも加わり、9月5日までの13日間にわたる障害者スポーツの熱き祭典が幕を開け、私は心からこの大会の成功を祈りました。

松本恒夫